



TITLE:

類型学研究会のあゆみ 2000.5-  
2008.3

AUTHOR(S):

---

CITATION:

類型学研究会のあゆみ 2000.5-2008.3. 類型学研究 2008, 2: 247-252

ISSUE DATE:

2008-06

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/65000>

RIGHT:

類型学研究会のあゆみ 2000.5~2008.3

2000年5月3日(土) 京都大学人間・環境学研究科

2000年6月3日(土) 京都大学人間・環境学研究科

柳沢民雄：デスニツカヤ「名詞類別と印欧語曲用の問題」について

2000年7月8日(土) 京都大学人間・環境学研究科

柳沢民雄：デスニツカヤ「印欧諸語における対格の起源」について

2000年8月12日(土) 京都大学人間・環境学研究科

柳沢民雄：デスニツカヤ「印欧語における対格の文法範疇の発達史に寄せて」について

2000年9月23日(土) 京都大学人間・環境学研究科

山口巖：印欧語の二重対格について

2000年11月4日(土) 京都大学人間・環境学研究科 紅葉狩り？

2000年12月23日(土) 京都大学人間・環境学研究科

石田修一：ロシア語形容詞の短語尾・長語尾とその周辺（サンニコフの研究からの推論）

2001年2月24日(土) 京都大学人間・環境学研究科

赤井規晃：G. クリーモフ「形容詞の歴史から（カルトヴェリ語史料）」

カツネリソン『主格文の起源』について

2001年3月24日(土) 京都大学人間・環境学研究科

柳沢民雄：ステパーノフ『印欧語の文』について

2001年6月2日(土) 京都大学人間・環境学研究科

山口巖：第二次大戦後の言語政策に生じた世界的傾向

2001年7月14日(土)京都大学人間・環境学研究科

横井幸子：『ノヴゴロド第一年代記（シノド写本）』における動詞 **бѣ** の用法について

2001年10月13日(土)京都大学人間・環境学研究科

柳沢民雄：アブハズ語動詞の形態と意味

2001年12月1日(土)京都大学人間・環境学研究科

李長波：古代日本語の動詞における〈自・他〉の問題（断章）

2002年2月2日(土)、3月9日(土)、5月25日(土) 京都大学人間・環境学研究科

2002年8月24日(土)京都大学人間・環境学研究科

松本泰丈：はたらきかけともようがえ？

2002年11月9日(土)鳥取県立図書館

千種眞一：印欧語の人称表示と文構造モデル

石田修一：アルパートフの論文「В Я の50年」について

柳沢民雄：アブハズ語における「与格」的表現について

2003年3月1日(土)京都大学人間・環境学研究科

柳沢民雄：時枝誠記博士の言語過程説よりみたアブハズ語の文について

赤井規晃：泉井博士の小林英夫譯『言語学原論』の書評について

李 長波：李長波著『日本語指示体系の歴史』解説

2003年6月14日(土)京都大学人間・環境学研究科

李長波：泉井久之助「小林英夫氏訳『ソツスユール言語学言論』を讀みて（上・下）」について

2004年3月13日(土)京都大学人間・環境学研究科

郡伸哉：V. V. イヴァーノフの神話研究について—二項対立原理を軸に一

2004 年 5 月 29 日(土)京都大学人間・環境学研究科

Honoré Watanabe [渡辺己]: A Sketch of Sliammon Morphosyntax

2004 年 10 月 30 日(土)京都大学人間・環境学研究科

石田修一: ロシア語史における対格、補語、他動性

2005 年 4 月 16 日(土)京都大学人間・環境学研究科

千種眞一: 文字の類型的分類と日本語の書記システム

2005 年 10 月 15 日(土)、11 月 26 日(土)、2006 年 6 月 10 日(土)

京都大学人間・環境学研究科 記念論集『類型学研究』についての打合せ、校正、相談

2006 年 8 月 26 日(土)京大会館

山口巖: 言語と時間 (続き)

2006 年 11 月 18 日(土)京都教育文化センター

石田修一: Nominative Object (古代ロシア、バルト、フィン) を巡って

2007 年 2 月 24 日(土)京都教育文化センター

松本泰丈: 琉球方言の主体・客体表現をめぐる

下地賀代子: 琉球多良間方言の動詞アスペクトについて?

2007 年 5 月 26 日(土)京都教育文化センター

山田勇: 語彙に見られる類型

松本泰丈: 『大島の歌集』394 番歌にみえる No 形の解釈のたてなおし

2007 年 8 月 26 日(土)京都教育文化センター

伊藤順二: 山口巖著『パロールの復権』再読—F. ジェイムスを横目に

2007 年 12 月 22 日(土)京都教育文化センター

郡伸哉: ドストエフスキーとロシア語の「言語的世界モデル」

2008年3月22日(土)京都教育文化センター

石田修一：クリモフ『内容類型学原理』再読（『類型学研究』第2号の編集）

2008年5月24日(土)京都教育文化センター

千種眞一：印欧語における人称標示のメカニズムとプロセス

## 類型学研究会会員

山口 巖 鳥取環境大学客員教授・京都大学名誉教授

石田 修一 元大阪外国語大学教授

山田 勇 香川大学名誉教授

松本 泰丈 別府大学教授・元千葉大学教授

千種 眞一 東北大学教授

郡 伸哉 中京大学教授

伊藤 順二 京都大学准教授

木下 晴世 京都大学非常勤職員

## 類型学研究 第2号

---

2008年6月16日発行 ©類型学研究会

代表者 — 石田修一

発行 — 類型学研究会 京都

事務局 — 木下晴世 [haruruenator@gmail.com](mailto:haruruenator@gmail.com)

印刷 — DTP WORKS 響 [youyouhibiki@gmail.com](mailto:youyouhibiki@gmail.com)

〒176-0002 東京都練馬区桜台 1-2-10-201

---

Printed in Japan

All rights reserved